

ライフサポートねりま 小笠原 尚和(理学療法士)

功 績 前年度の全国老健大会(埼玉大会)にて発表した演題が、大泉学園複合施設として初の奨励賞を受賞しました。全国老健大会は、受賞結果が1年後に発送されるため、このタイミングでの受賞となりました。この受賞は、小笠原個人だけでなく、日頃からチームケア・チーム医療に取り組んでいる老健リハチームにとって、大きなやりがいと自信に繋がった功績。

櫻井 真由美師長

推 薦 者 1年後に受賞結果がわかるため1年越しの推薦となりましたが、今も産休・育休等でリハスタッフが少ない中、チームケア・チーム医療に取り組んでいます。今回の受賞が老健リハチームのやりがいや自信、モチベーション向上に繋がって欲しく理事長賞に推薦致します。

内 容

Iさん 70代 女性 要介護度5 身長150cm代 体重90Kg代

疾患名 敗血症、慢性心不全、アルツハイマー型認知症、病的肥満症

10年間ほぼ寝たきり状態。在宅では訪問看護・介護・リハビリのサービスを利用。寝たきり状態で過ごし、起居動作は全介助、食事動作はベッド上、更衣は介助、排泄はバルーン留置と差し込み便器で対応、入浴は清拭のみと日常生活は全介助の状態でご施設にはストレッチャーで入所されました。

入所初日に、「このまま家のベッドの上で天井を見ながら人生が終わると思っていた。だから靴も全て捨てて人生の終活を始めていた」との話がありました。

肥満と重度の廃用症候群が認められましたが、認知面では状況理解が保たれていたため、生活の再構築と人間回復に向けチームで取り組みました。

一度は人生を諦めた方に対し、小笠原PTが中心となり、老健リハチームが初回介入よりご本人と段階的な目標と最終目標を明確にして共有。毎回のリハビリで目標に対する達成度合を数値や動画で確認することで、自己効力感を高め、自ら行動変容を起こせるよう行動変容計画を踏まえた攻めの理学療法を施行しました。「まさか、この短い時間でこんな奇跡が起こるなんて、ここに来ていなければ、あのまま人生が終わっていたと思うと本当に感謝しかありません。私、人生を取り戻しました。」と、段階的な目標をクリアすることで成功経験を積み重ね、希望に満ち溢れた笑顔を見せてくれました。

結果、6ヵ月で自立歩行できるまでに改善することができました。退所先は自宅ではなく特養入所を選ばれましたが、ご本人の努力は勿論のこと、ご家族の協力、そして何よりチームケア・チーム医療を実践できた症例であり、安心を超えた感動を提供することができました。